

(様式2)

議事録番号

提出 平成27年 9月 24日

会合議事録

研究会名：ソフト界面科学研究会

日時：9月14日(月) 17:00～19:15

場所：九州大学・伊都キャンパス・センター3号館・3301号室

出席者：(議事録記載者に下線)

池田宜弘(福岡女子大)、荒川悦雄(東京学芸大)、杉山武晴(九大シンクロセンター)、宇留賀朋哉(JASRI)、矢野陽子(近大理工)、谷田肇(京大)、原田誠(東工大)、今井洋輔(九大基幹)、平城慎也(九大院理)、佐藤翔平(九大院理)、高寄峻一(九大院理)、押川泰士(九大理)、早瀬はるな(九大理)、瀧上隆智(九大基幹)

計14名

議題：最近の研究紹介(3件)および意見交換

議事内容：

ソフト界面に関する研究動向について研究会メンバー間での情報共有を目的に、以下のプログラムに沿って研究会会合を開催した。

【プログラム】

17:00～17:10 主旨説明(瀧上隆智)

17:10～17:40 講演1(池田宜弘先生/福岡女子大)

「泡膜やエマルション膜における2分子膜構造と界面間相互作用」

17:40～18:10 講演2(荒川悦雄先生/東京学芸大)

「波長角度分散型のX線反射率計測」

18:10～18:40 講演3(杉山武晴先生/九州大)

「九州大学硬X線ビームライン(SAGA-LS/BL06)におけるXAFS/SAXS利用研究」

18:40～19:00 意見交換

「新分野、新領域に関する研究開発ニーズの収集」「研究開発成果の展開について」

今回の会合では、ソフト界面科学分野での重要な研究の一つである「泡膜・エマルション膜」に関する先端研究の紹介、X線反射率の時間分解計測に関する最新の研究動向、および佐賀シンクロトロン施設・九大ビームラインでの研究展開の現状と発展性について講演頂き、闊達な意見交換がなされた。また、今後の研究展開の方向性、新たな研究対象への適用性、新手法の展開について議論した。